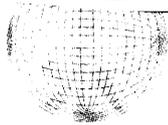
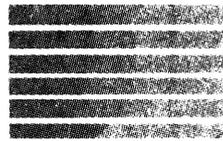


2007年(平成19年)8月20日(月曜日)



Environment
Net Work



環境破壊の代表 ボトル水購入を永久禁止

～サンフランシスコ・水道水を飲むべき～

米国では環境意識の高まりに、ボトル水を巡る論議が活発化している。例えば5大湖周辺から生産されるボトル水の州外移動禁止や、環境学者レスター・ブラウン氏による「ボトル水は環境破壊の代表で、水道水を飲むべきだ」と水道関係者にとり興味のある話題が沸騰している。

この様な背景下で、サンフランシスコ市のギャビン・ニューソム市長は世界で初めて、今後市役所および関係する出先機関でのプラスチックボトル詰めの水の購入を禁止する市長命令を出した(2007年6月21日)。

これは税金の節約と環境保護が目的で、その命令内容は7月1日からサンフランシスコ市および関係する郡、出先機関は、今までのボトル水のレンタル契約破棄、および新規のボトル水の購入契約禁止。これはまた市が主催するいかなるイベント(行事)にも適用される。

さらに9月30日まで、上記命令が遂行されているかどうか、市の機関に対し特別査察チームが「ボトル水から水道水への切り換え状況を監査」する。

12月1日までにボトル水禁止命令の適用範囲をサンフランシスコ郡の機関にも広げる予定で、水道水に切り替わっていることを確認する内容である。

レスター・ブラウン氏によれば、米国人が購入するボトル水容器の材料として年間4000万バレルを超える石油が消費されている。更に廃棄物問題を引き起こしていると指摘している。

2004年に於ける世界のボトル水の需要は410億バレルであり、これは過去5年間で57%の増加を示している。そのボトル水のコストも水道水と比べ240倍から1万倍に達している、ここサンフランシスコでも、1バレルのボトル水の価格は、1000バレルの水道水に相当する。水の価格だけではなく、サンフランシスコ市がボトル水を購入しないことで、ごみとなるプラスチック容器の運搬や廃棄物処理のコストも省けると期待される。カリフォルニアでは毎年10億本以上の容器が埋立地に運ばれている。

ニューソム市長は、サンフランシスコは地球温暖化防止を目指した地域アクションプランを策定しエコシステムを強力に推進していることや、市内では多くの場合、水道水の方がボトル水より水質が良いこと、特にヘッチ・ヘッチ貯水池の雪解けの美味しい水を飲むことを推奨している。

公益事業委員会のウィニカー広報官は、「ボトル水をなくすため、民間や他市に手本を示したい」と話している。(Y)

北京市の水道水

「直接飲用が可能に」と発表

～日本人には危険の声も～

北京市自来水集団の水質観測センターは6月29日、「北京市の水道水が、中国の新しい106項目の飲用水質基準を満たし、直接飲用しても問題のないレベルに達した」と発表した。

北京市では2008年のオリンピックを前に、水道水の水質改善を目指して浄水技術の向上や水源保全などに取り組んでいる。

しかし中国の水道事情に詳しい日本の学識者は、「北京などの大都市では水道管の老朽化が著しい。浄水場から水質基準を満たした水が送られても、途中で塩素が消費されてしまい、末端まで水質が保たれるかは

疑問」「特に日本人の観光客は直接飲まない方が無難」と話している。

中国では22年ぶりに「生活用水衛生基準」が改訂され、2007年7月から新基準が施行されている。新基準では、これまで35項目しかなかった基準を106項目に増やした。新しい規定では微生物関係6項目、毒性に関するもの74項目、化学的指標20項目、放射線指標2項目、消毒に関するもの4項目となっている。

北京市自来水集団の発表は、「目標より5年早く新しい飲用水質基準を満たした」というものだ。同集団は北京市中心部の8つの区の90%以上に飲用水を提供しており、水供給のネットワークは7千キロを超えている。